

未来医療研究人材養成拠点形成事業  
 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント  
 [テーマA：メディカル・イノベーション推進人材の養成]

		整理番号	A - 2
申請担当大学名 ( 連携大学名 )	千葉大学		
事業名	未来医療を担う治療学CHIBA人材養成		
事業責任者	大学院医学研究院 教授 中山 俊憲		
<b>事業の概要</b>			
<p>千葉大学医学部の100年以上にわたる臨床医学推進の伝統を基に、「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院までの一貫的教育システムを導入し、先見性と柔軟性、幅広い視点を有し、将来の医療イノベーションを担う人材を輩出することを目的とする。医学部3年生全員がイノベーション医学教育を受け、希望する学生は4年から5年生の間にイノベーション基礎力をつけるためのゼミや実習に参加する。医科学修士課程の学生も医学部生とともにゼミや実習に加わり、異なるバックグラウンドを持つ学生同士で切磋琢磨することにより、イノベーション知的融合の素地とともに独自の能力発展の基盤をつくる。博士課程では実践力を養うための特別ローテーション演習や国内外企業実習などを組織する。医学部、薬学部、工学部の先進的教員に加え、製薬企業や政府機関および海外の開発研究機関の客員教員の参画によるイノベーション医学の教育システムを構築する。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> <span style="margin-left: 100px;">：優れた点等、</span> <span style="margin-left: 100px;">：改善を要する点等</span>			
<p>学部学生にトランスレーショナル先端治療学、イノベーション医学等の講義・実習が導入されている点は優れている。</p> <p>実体験型の産学連携教育が、イノベーションマインドの育成とともに謳われており、実現が楽しみである。</p> <p>医学部医学科生、修士学生、博士学生と段階的にプログラムが積み上げられており、実効性が期待できる。</p> <p>実施体制が十分に考えられている。</p> <p>目的を達成するための連携構築がしっかりしている。</p> <p>評価の指標が、「イノベーション関連の研究開発に従事する意志」だけでなく、博士課程では関連する論文作成、特許取得等を含むことが望ましい。</p> <p>教育内容のひな形となるような既存の産学連携研究の取組についても記述に具体性があるとなお良い。</p> <p>他学部や医療関連他職種との連携についても実現いただきたい。</p> <p>物品費に「イノベーション治療学演習用機器」が計上されているが、主に病理診断系の研究機器が本事業に必要なかどうか不明である。</p>			
<b>留意事項</b>			
<p>修士課程大学院生の履修科目の一部が医学部生の履修科目と同一になっているが、学部・大学院それぞれのレベルに応じた教育内容・評価とすること。</p>			